

令和7年度 奈良市子ども会議 報告書



奈良市
子ども政策課

目次

I 奈良市子ども会議の概要	1
1 奈良市子ども会議について	1
2 令和7年度奈良市子ども会議開催状況	1
3 ファシリテーター	1
4 子ども参加者	2
5 サポーター	2
II 奈良市子ども会議の開催	3
1 奈良市子ども会議の内容	3
2 振り返りシート集計結果	6
3 アンケート集計結果	9
III 奈良市子ども会議意見書	12
IV 意見書に対する答え	16

別冊資料

- 令和7年度奈良市子ども会議 意見書(原本の写し)



I 奈良市子ども会議の概要

1 奈良市子ども会議について

奈良市では、子どもたちが、今を幸せに生きることができ、将来に夢と希望をもって成長していけるような、子どもにやさしいまちづくりを目指して「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」を制定し、平成27年4月から施行しました。

奈良市子ども会議は、この条例の規定に基づき、子どもの意見表明や参加を支援するための取組で、この会議に参加する子どもたちが子どもにやさしいまちづくり等について話し合い、出された意見をまとめ、市長に提出することを目的としています。

子ども会議開催初年度から11回目を迎える令和7年度の奈良市子ども会議は、「奈良市の防災を考えよう！」というテーマのもと、「子ども目線の防災」として「自助・共助・公助」について考えました。

そして、子ども会議を通して話し合った内容を市長へ伝える意見報告会を実施しました。

【テーマ】

「奈良市の防災を考えよう！」

2 令和7年度奈良市子ども会議開催状況

(1) 開催日・テーマ・参加人数

回	開催日	各回のテーマ	参加人数
第1回	令和7年7月25日（金）	「仲間と出会い、 テーマをしっかりと理解する」	15人
第2回	令和7年7月29日（火）	「防災を体験しよう」	14人
第3回	令和7年8月1日（金）	「意見を発散しよう」	13人
第4回	令和7年8月5日（火）	「意見の整理と 『伝わる意見書』の作成」	10人
第5回	令和7年8月8日（金）	「+αの伝える手段の作成、 プレゼン練習」	14人
—	令和7年8月18日（月）	「市長への意見報告会」	13人

(2) 開催時間・場所

▶ 開催時間 午前10時から正午まで

▶ 開催場所 奈良市役所 中央棟地下1階 B1会議室 ※7月29日（火）のみ奈良市立大宮小学校

3 ファシリテーター

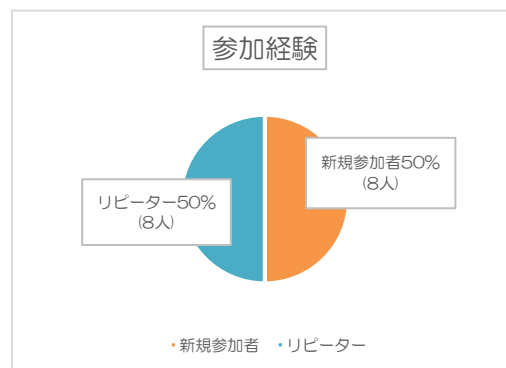
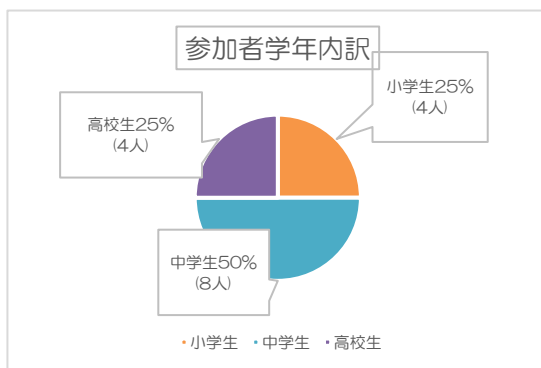
地域ファシリテーター／令和5・6年度奈良市子ども会議ファシリテーター 萩原 有紀 氏

4 子ども参加者

小学5年生から高校3年生までの子どもを対象に、公募等により募集し、16名の子どもが参加しました。

	氏名	学校名	学年
1	ナムラ アイリ 南村 藍里	済美小学校	5
2	ワタナベ 渡辺 ちひろ	三碓小学校	5
3	ワカナ タイガ 若菜 大雅	ならやま小中学校	6
4	ミチハタ コウ 道畑 優	奈良女子大学附属小学校	5
5	ニシムラ タイチ 西村 泰一	三笠中学校	2
6	オオムカイ アキ 大向 彩希	三笠中学校	3
7	アオヤマ コウヘイ 青山 幸平	飛鳥中学校	2
8	ナカムラ ティファニー 中村 雅	大阪女学院中学校	2
9	アカサカ ヤマト 赤阪 弥真斗	春日中学校	2
10	タニダ ニコ 谷田 仁胡	奈良女子大学附属中等教育学校	3
11	イノウエ ワカ 井上 和香	若草中学校	1
12	ホウジョウ アラシ 寶上 新史	三笠中学校	3
13	ヤマナカ アリサ 山中 杏莉佐	奈良東養護学校（高等部）	2
14	ニシダ アヤネ 西田 文音	奈良女子高等学校	2
15	セキグチ マユコ 関口 真由子	京都教育大学附属高等学校	2
16	トヨモリ マユコ 豊森 万由子	奈良女子高等学校	2

（敬称略）



5 サポーター

奈良市内に在住または在学している大学生等を対象に募集し、8名の大学生が参加しました。

	氏名	大学名	学年
1	モリタ ユリカ 森田 優梨花	同志社女子大学	3
2	ナカムラ ハルナ 中村 陽奈	同志社大学	1
3	フジタ カレン 藤田 果怜	近畿大学	1
4	イノウエ コウキ 井上 裕貴	近畿大学	1
5	エガシラ トウマ 江頭 透真	奈良大学	3
6	ハヤシ ユイ 林 優衣	龍谷大学	4
7	モリサダ アヤ 森貞 綾	近畿大学	3
8	オノ ショウタロウ 小野 祥太郎	奈良大学	3

（敬称略）

Ⅱ 奈良市子ども会議の開催

1 奈良市子ども会議の内容

(1) 第1回「仲間と出会い、テーマをしっかりと理解する」(7月25日開催)

10:00 開会

- ・開会あいさつ(市長)
- ・記念撮影
- ・ファシリテーター紹介

10:20 アイスブレイク

- ・チーム対抗「防災ミッションゲーム」

10:35 休憩

10:45 子ども会議の趣旨および会議テーマの説明(事務局・担当課)

10:55 グループワークの説明

11:05 グループワーク

- ・災害や防災について思うことの意見出し
- ・ポストイットと模造紙を使ったメモ作成

11:50 振り返り

12:00 閉会



(2) 第2回「防災を体験しよう」(7月29日開催)

10:00 開会・事前説明(大宮地区自主防災・防犯組織)

- ・避難所とは

10:10 体験ブース

- ・応急手当講習(中央消防署)
- ・間仕切りテント・簡易トイレの設置体験
- ・市の防災倉庫見学

11:10 休憩

11:20 非常食の試食

- ・わかめご飯、クラッカー

11:50 振り返り

12:00 閉会



(3) 第3回「意見を発散・整理しよう」(8月1日開催)

- 10:00 開会
- ・ 前回の振り返り
 - ・ 今回の進め方
- 10:15 グループワーク
- ・ 意見出し
- 11:00 休憩
- 10:15 グループワーク
- ・ 意見出し
- 11:50 振り返り
- 12:00 閉会



(4) 第4回「意見の整理と『伝わる意見書』の作成」(8月5日開催)

- 10:00 開会
- ・ 前回の振り返り
- 10:05 ミニ講座
- ・ 「意見書+ α 」について
 - ・ 「何をテーマとするか」
- 10:20 グループワーク
- ・ 意見書の作成
- 11:00 休憩
- 11:10 グループワーク
- ・ 意見書と+ α の作成
- 11:50 振り返り
- 12:00 閉会



(5) 第5回「+ α の伝える手段の作成・プレゼン練習」(8月8日開催)

- 10:00 開会
- ・ 前回の振り返り
- 10:05 ミニ講座「伝わるプレゼンとは」
- 10:30 グループワーク
- ・ 各グループの作戦会議
- 10:50 休憩
- 11:10 グループワーク
- ・ 意見書と+ α の作成、仕上げ
 - ・ 報告会の役割分担決め
- 11:20 リハーサル
- ・ 報告会の予行演習
- 11:50 振り返り
- 12:00 閉会



(6) 令和7年度奈良市子ども会議からの意見報告会（8月18日開催）

- 13:30 事前打ち合わせ
・意見報告会の進行について確認、意見報告の練習
- 14:00 開会
・出席者紹介 等
- 14:05 市長へ意見書提出
・記念撮影
- 14:10 ファシリテーターから今年度の子ども会議について説明
- 14:15 各グループごとに意見発表・市長との意見交換
- 14:55 市長からのコメント
ファシリテーターからのコメント
- 15:00 閉会



2 振り返りシート集計結果

奈良市子ども会議の各回で子どもたちにその日を振り返るアンケート(振り返りシート)を記入してもらい、子ども会議についての意見を聞きました。その集計結果は次のとおりです。

回答者数	第1回	14名
	第2回	14名
	第3回	13名
	第4回	10名
	第5回	14名

(問1) 楽しかったですか？

選択肢	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とてもそう思う	10	71%	13	93%	11	85%	10	100%	13	93%
そう思う	4	29%	1	7%	2	15%	0	0%	1	7%
そうでもない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
そう思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	14	100%	14	100%	13	100%	10	100%	14	100%

(問2) わかりやすかったですか？

選択肢	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とてもそう思う	12	86%	12	86%	11	85%	9	90%	12	86%
そう思う	2	14%	2	14%	1	8%	0	0%	2	14%
そうでもない	0	0%	0	0%	1	8%	1	10%	0	0%
そう思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	14	100%	14	100%	13	100%	10	100%	14	100%

(問3) 話しやすかったですか？

選択肢	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とてもそう思う	11	79%	12	86%	11	85%	9	90%	14	100%
そう思う	1	7%	1	7%	2	15%	1	10%	0	0%
そうでもない	2	14%	1	7%	0	0%	0	0%	0	0%
そう思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	14	100%	14	100%	13	100%	10	100%	14	100%

(問4) 今日子ども会議に参加して、感じたこと、気づいたこと、考えたことなど…なんでも書いてください！

① 第1回 (※一部抜粋)

- ・自分の意見を言えるのはいいことだと思いました。
- ・学校のことを活かせてよかったです。だからもっとしたい。
- ・小学生も防災について考え、その考えをしっかりと文字に表せているのが素敵だと思った。
1人1人意見が異なる所もあって話してとても楽しかった。
- ・いろんな意見があって幅広い視野ができた
- ・私は、今回初めて子ども会議に参加して、色々な人の意見を知ることができました。次回も楽しみです。
- ・防災は、今最も考えるべきテーマだと思っていたので、すごく興味深いなと思いました。
また今年は例年と違って、実際に食べたり、動いたりできるそうなので、本当に楽しみです！
- ・周りの人たちが意見を言いやすいように工夫してくれてうれしかった。

② 第2回 (※一部抜粋)

- ・体験型の子ども会議は初めてだったから、とても楽しめました。
- ・奈良市では、さいがいが起きても、みんなが安心してひなん所ですごせるようにとりくみをしているんだなと思った。
- ・常にうちわか あおぐことのできる物を持ち歩いた方がいいという事が分かりました。
- ・テントの組立てがちょっとむずかしかったけど、かんたんですぐできました。色々楽しく学べました。
- ・テントをたてるのがとても楽しくてトイレも作るのがむずかしかったです。
- ・災害時に役立つことが大切で、これからも大切にしたいと思った。
- ・防災するに当たって、公助、共助は人数や日数、季節など様々な想定を元にする必要があると知った。
蓄えに関して、公・共助では限りがあることから、家から持ち出すのが難しいもの(服や寝具など)を蓄えておくことがいいと思った。食料や水の備蓄は期限や温度管理など問題が多いのだろうと思った。個人での備蓄は管理しやすいが金銭問題や、持ち出せる限度、栄養問題など課題が多くあると思った。

③ 第3回(※一部抜粋)

- ・いろいろな意見をまとめるのは大変だけどしっかりとまとめて話し合うのが大切だと思った。
- ・子ども目線で考えるのが難しかった。受験生の時に災害にあったらどうしようと思った。
避難所の配慮などがたくさんあって安心した。
- ・今日も楽しかったです。
- ・新聞紙でスリッパを作ったけど、応用もきくし、ミニも作れるから新聞のすごさを知りました。
- ・防災バックにいれておきたい物をみんなで考えたが、なかなか意見がでなかった。
子供目線で考えたとき、ゲームやおかしなどの娯楽以外に何があると良いか頭をやわらかくして考えていきたい。

④第4回(※一部抜粋)

- ・意見を出し、提言まで決めることができて良かった。
- ・実際できるかわからないことをすることになったけど、みんなで話し合っって意見書を作っていきたいと思いました。
- ・交流もあってとても良かったです。
- ・ポスターをかくのがたいへんだった。
- ・テーマやポスターの標語をどうするのか、どんな感じで伝えるといいのか、どうすれば伝わりやすいのかが、難しいと思った。
意見として自分の伝えたいこと、自分がこうしてほしいと思ったことをまとめるのが大変だった。
次回はしっかりとまとめて出せるようにしたい。

⑤第5回(※一部抜粋)

- ・みんなで話し合うのは大切だと思った。いろいろなことを考えることができた。
- ・リハーサルをして司会で はきはきしゃべることができた。
- ・また参加したいです
- ・大変なことでも協力してできた
- ・今年度はテーマが考えやすく、また、feelingの機会があったため、深く考えることができました。
これからも体験型をいれてほしいです！
- ・2回休んでいたけど、その分チームの人が色々教えてくれるなど、チームの人のやさしさがうれしかった。
- ・学年が違う子たちの発想がおもしろい、発想の違いを見つけるのが楽しい。
- ・思うままに意見を出し、それをどうまとめるかが大事なんだなと思った。また、意見を出し合い、相手の顔をうかがうことなく交流することが良い提案の元になるのかもしれないと思った。短期間で意見をまとめることの大変さを知った。
- ・私たちが出した意見をどのように提言書にまとめるかによって仲川市長への伝わり方が大きく変わるなと思った。
私たちの意見がしっかり伝わるように、当日までしっかり備えたい。



3 アンケート集計結果

全5回の子ども会議終了後には奈良市子ども会議全体を振り返ってのアンケートを子どもたちに記入してもらいました。その集計結果は次のとおりです。

回答者数 14名

(問1) 奈良市子ども会議のことを何で知りましたか。

選択肢	人数	%
学校での案内	5	36%
友達や保護者からの紹介	6	43%
しみんだより	0	0%
奈良市のホームページ	1	7%
奈良市公式SNS	1	7%
チラシ	0	0%
口コミ	0	0%
その他	1	7%
計	14	100%

(その他)

・奈良市からのメール

(問2) 奈良市子ども会議全体を通して、満足でしたか。

選択肢	人数	%
満足	11	79%
やや満足	3	21%
普通	0	0%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
計	14	100%

(問3) 奈良市子ども会議全体を通して自分の意見を言うことができましたか。

選択肢	人数	%
十分できた	10	71%
できた	4	29%
どちらともいえない	0	0%
あまりできなかった	0	0%
まったくできなかった	0	0%
計	14	100%

(問4) 子ども会議に来年もまた参加したいですか。

選択肢	人数	%
とても参加したい	10	71%
参加したい	4	29%
どちらともいえない	0	0%
あまり参加したくない	0	0%
参加したくない	0	0%
計	14	100%

(問5) 奈良市は子どもにやさしいまちだと思いますか。

選択肢	人数	%
とてもそう思う	7	50%
そう思う	4	29%
あまり思わない	1	7%
まったく思わない	0	0%
わからない	2	14%
計	14	100%

(その理由) ※一部抜粋

【とてもそう思う】

- ・子ども会ぎなどで子どもに意見をきいているから
- ・子どもの意見を聞くための会議があったり、子どもが集まる場所が各地にあることから。
- ・子どもへの支援サービスがたくさんあるから

【そう思う】

- ・こういう、子どもだけが会議するのはなかなかないと思うから。
- ・きゆうふ金もらった

(問6) 奈良市子ども会議に参加して、良かったところ、悪かったところ、変えてほしいところなど、自由に感想や意見を書いてください。(開催時期、回数、場所、内容など) ※一部抜粋

- ・みんなそれぞれ異なる意見を共有し合い、1つのテーマにまとめるのが目新しく楽しかった。
- ・よかったところは一人一人の意見がそんちょうされる
- ・もうちょっとあったらよかった。みんなと協力できた。
- ・しゃくしょで はなすだけではなく、しゃくしょをとびだして、ぼうさいしょくひんをたべたりたいけんが多かったのがよかった。
- ・できれば7月中に全ての回を終わらせてほしい、1週間に2回の回数はちょうど良かった思う。
- ・子ども達が学年関係なく意見を言えたり、自分の発言ができるのはとても良かった。

(問7) 来年の奈良市子ども会議の開催について、提案をお願いします。(N=14、複数回答可)

(1)開催時期について

選択肢	人数	%
夏休み	11	79%
冬休み	2	14%
学期中の土曜日・日曜日	1	7%
その他	2	14%

(その他) ※一部抜粋 ・ゴールデンウィーク 等

(2)開催時間について

選択肢	人数	%
午前	6	43%
午後	4	29%
一日中	3	21%
その他	1	7%

(その他) ・その時したい

(3)開催回数について(市長への報告は含まない)

選択肢	人数	%
2回	0	0%
3回	0	0%
4回	1	7%
5回	4	29%
6回	2	14%
7回	5	36%
その他	2	14%

(その他) ・10回ぐらい、2～3回

(4)子どもたちへの周知方法

選択肢	人数	%
しみんだより	7	50%
学校での案内(チラシ)	9	64%
学校での案内(パソコン)	6	43%
学校での案内(先生等)	7	50%
奈良市のホームページ	6	43%
奈良市公式SNS (LINE、Instagram、Facebook、X)	6	43%
友達や親からの紹介	4	29%
口コミ	2	14%
その他	2	14%

(その他) ・フリースクールなどの学校いがいのコミュニティ

Ⅲ 奈良市子ども会議意見書

奈良市子ども会議で出された子どもたちの意見をまとめ、市長に提出するための意見書を子どもたち自身で作成しました。

令和7年度奈良市子ども会議では、「奈良市の防災を考えよう！」をテーマに、小学生・中学生・高校生の年代ごとに4つのグループに分かれて議論を行いました。

奈良市の災害・災害に関する説明や大宮小学校で行ったフィールドワークでの体験などを通して感じた課題や、奈良市をより良くするための方法について、「市への提案とその背景」について意見書にまとめました。

なお、この意見書の原本は子どもたちによる手書きの意見書になっていますので、この報告書の別冊資料としてその写しを添付しています。

また、数値が最新のデータではない場合がありますが、原文のまま転記していますので、ご了承ください。

Aグループ <チーム名:KdPo>

[メンバー]

南村 藍里 道畑 優 若菜 大雅 渡辺 ちひろ

[テーマ]

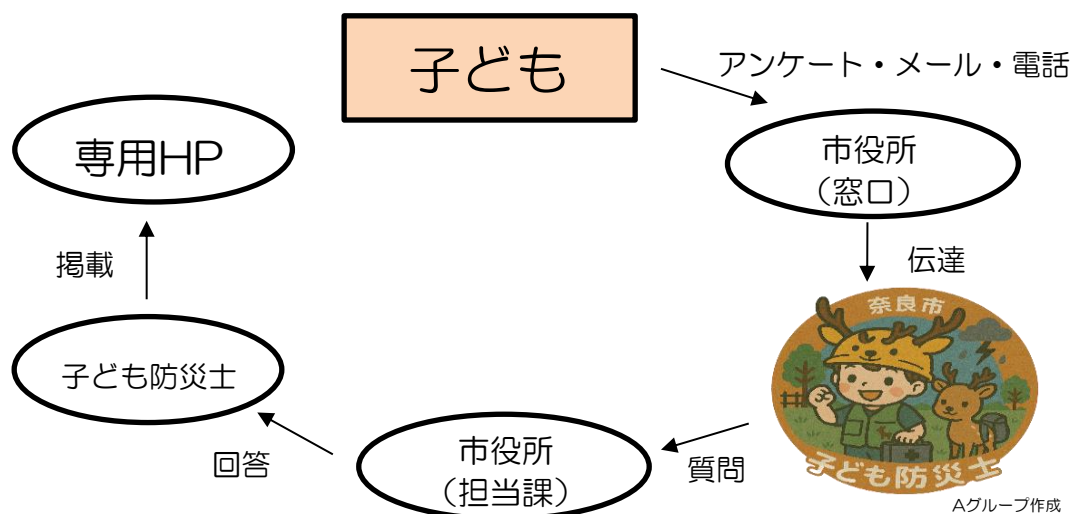
子ども目線の防災士！？

[背景（どうしてこのテーマを選んだのか）]

メンバーの1人が事前に防災について調べてきてくれて、そこで京都府の亀岡市の子ども防災士について知ったのを教えてくれたのがきっかけです。

実際に子どもが防災について知らないということがあります。なぜなら、わたしも奈良市子ども会議にいったから防災について知れたので、今回これなかった子たちは、防災について知ることができていない、分からないと思うので、子ども防災士を作って、子どもからの防災への不安、ぎもん、意見を大人へ伝える活動や子どもへ防災についての事を伝える活動をしたほうがいいと考えます。

[私たちが意見したいこと]



Aグループ作成

Bグループ <チーム名:小麦>

[メンバー]

大向 彩季 青山 幸平 西村 泰一 中村 雅

[テーマ]

車中泊でのエコノミークラス症候群を防ぐための対策

[背景（どうしてこのテーマを選んだのか）]

熊本地震で震災関連死で亡くなった197人のうち、エコノミークラス症候群で亡くなった人は車中泊が原因の人が少なくとも33人います。

防げることがあると思ったから、私たちがこれを防ごうと思いました。

[私たちが意見したいこと]

(1) 車中泊をすることについて、以下のことから、ペット・赤ちゃんがいる家庭では車中泊で過ごすことでも良いが、周りの目が行き届く場所で過ごしてもらうことを提案します。

しかし、特にひとりである高齢者、人の助けがないと動けない人は避難所で過ごすことを提案します。

メリット：まわりの目を気にせず過ごすことができる。

赤ちゃんの泣き声、ペットの吠え声を気にしなくてすむ。

デメリット：エコノミークラス症候群や一酸化炭素中毒になるリスクがある

(2) 運動不足によるエコノミークラス症候群を引き起こすリスクを防ぐための3つの提案をします。

①車中泊をしている人にご飯を取りに来てもらう

→ もし、取りに来てない人がいたら、その人の体調が悪いから取りに来ていないのかなどが分かる。

②早期発見するための見回り制度

→ 子どもと大人が少しでも触れ合うこと、エコノミークラス症候群を防ぐために運動をするという目的を持ち、1日3回交代制度を設け、中高生のボランティアが車中泊をしている人に声をかけた
り、ペットや赤ちゃんがいる家庭の負担をやわらげるために、必要なものを届けてあげる。

③避難所にポッチャやトランプなどの遊び遊具を設ける

Cグループ <チーム名:柿アゲ↑>

[メンバー]

寶上 新史 赤阪 弥真斗 谷田 仁胡 井上 和香

[テーマ]

全世代（特に子ども）に防災を知ってもらうために、防災に関する体験をやってもらい
防災について深く知ってもらおう！

[背景（どうしてこのテーマを選んだのか）]

防災についてあまり知る機会がなく、座学では子どもには分かりにくく、興味も湧かない。
また、いざとなったときに、頭ではわかるが、動けないということ为了避免のために、ゲームにし、
楽しみながら防災を体験してもらい、考えるきっかけとなればいいなと思ったから。

[私たちが意見したいこと]

4つの体験スペースに分けて、五感を通じて防災を体験しよう！

①避難を再現した巨大迷路を作り、中で防災クイズを解く。

→実際に「逃げる」というのを体験してもらおう。かつ、楽しみながら防災について知れるチャンスを作る。

②奈良市をテーマとしたVRをつくる

→避難経路を決めておいても、実際に災害がおきたとき、道が使えないことがあったり、
危険な箇所が出てくる。そのため、自分たちが普段暮らしている場所が災害になった想定を
VRで体験してもらおう。

③曲に合わせた心臓マッサージの体験

→心臓マッサージは確かな知識と、強い力が必要で、また1分1秒が生死を分けるため、子どもから
大人まで体験しておくことが必要だと考えた。また、リズムが「アンパンマンのマーチ」や
「ドラえもののうた」だということも知ってもらえる機会にする。

④非常食を食べてみよう！！

→災害時の非常食は食べる機会が少ないため、実際に食べてもらい、味を知ってもらおう。
非常食を配る余裕がなければ、期限ぎりぎりのものを使用したり、限定50名様までなどでも良い
と思う。

Dグループ <チーム名:JK>

[メンバー]

豊森 万由子 西田 文音 山中 杏莉佐 関口 真由子

[テーマ]

災害時の情報不足解消について



Dグループ作成

[背景（どうしてこのテーマを選んだのか）]・[私たちが意見したいこと]

私たちは災害時の情報不足の解消について提案します。

なぜなら、災害に対する正しい知識を付けていないと、災害時冷静になれず判断を誤り、命を落としてしまう方が多数いるという課題があるからです。

情報不足の具体例として、災害時に避難所の位置が把握できておらず、逃げ遅れて被害に巻き込まれる等があります。

このことから、命を守るためには災害に対する正しい知識をつけることが重要だと考えました。

私たちのような子どもも正しい知識をつけることができ、さらに、ポイントと景品を交換できるシステムを採用したアプリを開発し、これによりアプリを使用したいという意欲を高め、アプリの使用率を高めることが可能だと考えました。

このような方法で、災害時の情報不足を解消することを提案します。



IV 意見書に対する答え

子ども会議で提案のあった子どもたちからの意見に対する市の答えをまとめ、各部署の担当者が、子ども達に直接回答を説明しました。（令和7年12月25日）

回答内容は次のとおりです。



Aグループ <チーム名:KdPo>への回答

[テーマ]

子ども目線の防災士！？

[提出してくれた意見]

子どもからの目線で防災を考えられる「子ども防災士」を作り、防災への不安・疑問・意見を子どもから大人に伝える活動や、子どもへ防災について伝える活動をした方が良い。

[ポイント]

子どもの目線で防災を考え、防災について広く伝えることが大切
つまり、子どもからの目線で考えられる仕組み

[回答]

防災について学んだり考えたりすることは、大切なことです。

小学校や中学校では、社会科や理科で、自然災害のことや、災害から人々を守る仕組みについて学習しています。

また、奈良市教育委員会では、児童生徒のみなさんが安心・安全に過ごすことができるよう、学校園安全管理マニュアルを作っています。このマニュアルを参考に、小学校や中学校で計画を立て、火災や地震が起きた場合を考えた避難訓練をしたり、防災の日などに、防災に関わる学習をしたりしていますので、今後もこのような防災について学ぶ機会を大切にしていきます。 【回答：学校教育課】

みなさんが『こわいな』『どうして?』『こうしたい』とまっていることを大人に話せる場所を作ること、とても大事なことだと思います。奈良市で実施している防災意識アンケートの子ども版であったり、各学校で出前講座が開かれるとき、皆さんの考えを聞かせていただいたりするのもよいかもかもしれません。そうして寄せられた皆さんのアイデアをもとに、皆さんやご家族が楽しみながら防災知識とスキルを身に付けられるように、今後、地域や学校等にも幅広く働き掛けていきたいと思っています。

【回答：危機管理課】

Bグループ <チーム名:小麦>への回答

[テーマ]

車中泊のエコノミークラス症候群を防ぐための対策

[提出してくれた意見]

- 車中泊を行う避難者のエコノミークラス症候群を防ぐ
 - ①車中泊をしている人に運動の一つとしてご飯を取りに来てもらい、避難者の状況把握と体調不良者の早期発見に繋げる。
 - ②見回り制度を導入して、子どもと大人が少しでも触れ合うことと、エコノミークラス症候群を防ぐために運動をする。1日に3回、交代制度を設け、中高生のボランティアが車中泊をしている人に声をかけ、ペットや赤ちゃんがいる家庭の負担をやわらげるために、必要な物を届ける。
 - ③避難所にポッチャやトランプなどの遊び道具を設ける。
- 車中泊・避難所の運用について
 - ④ペットや赤ちゃんがいる家庭は車中泊で過ごすのも良いが、周りの目が行き届く場所で過ごしてもらおう。ひとりの高齢者や手助けが必要な人は避難所で過ごす。

[ポイント]

- エコノミークラス症候群による災害死は防ぐことができる
- 災害時に子ども達自身も、みんなの力になる制度

[回答]

- 健康対策について

エコノミークラス症候群は、長時間同じ姿勢でいると、どんな人でも発症する可能性があり、予防対策として水分を摂ったり軽く運動することが大切です。

災害時は、避難者のみなさんの健康管理も私たちの大事な仕事で、車中泊をしている人に、運動の一環として食事などを取りに来てもらうことは、とても良い提案だと思います。

例えば、車中泊の人も避難所にいる人も、朝は集まってラジオ体操で体を動かしてもらったり、巡回の時に体を動かすよう伝えたり、予防対策として運動が大事であることを伝えていきますが、もしもの時に備えた普段からの啓発活動でも、避難生活の中で運動などの予防策が大事であることをお知らせしていきます。 【回答：健康医療部】

・①について

支援物資の届け方・受け取り方という場面で、必要な物資を受け取るだけでなく、それを運動の一環としてエコノミークラス症候群の予防につなげることは、特に長期間にわたる避難生活において、とても重要だと思います。災害時の避難所の入所受付について、奈良市は、「避難所受付システム」を活用しており、登録の際の滞在場所は「避難所」に加えて「車中泊避難」や「その他（自宅や友人宅等）」の選択項目もあり、車中泊の人を把握できるようになっています。物資は指定避難所に取りに来てもらうので、接触機会が必ずあります。 【回答：危機管理課】

・②について

自主防災防犯組織と連携し、避難所の被災者の不安を少しでも和らげられるよう、避難所での定期的な運動や声掛けを行うよう促します。 【回答：危機管理課】

・③について

避難所のスペースは限られているので、大きな遊具は置けません。簡単な健康器具が救援物資として届いたときにはぜひ使っていただきたいと思います。また、避難中の健康維持のため、スポーツクラブと協定を結んでおり、出張健康教室が開かれる機会もあるかと思います。適度な運動を取り入れて避難所運営をすることを避難所運営マニュアル・ガイドラインにも記載していますので、それに基づいて対策をしていきます。また、お菓子も含めて、みなさんが退屈しないものも、自助における備蓄に必要な視点として周知啓発していきます。 【回答：危機管理課】

・④について

ペット連れの方や小さな子ども、高齢者、障がいのある方など、それぞれの困りごとや事情に合わせた対応をしていきます。主な避難所となっている体育館だけではなく、別の部屋を利用することも考えられます。災害時は、みんなで協力して危機を乗り越えましょう。 【回答：危機管理課】



Cグループ <チーム名:小麦>への回答

[テーマ]

全世代（特に子ども）に防災を知ってもらうために、防災に関する体験をやってもらい防災について深く知ってもらおう！

[提出してくれた意見]

- ①避難所を再現した巨大迷路を作り、その中で防災クイズを解く
- ②奈良市をテーマとしたVRを作る
- ③曲に合わせた心臓マッサージの体験
- ④非常食を食べてみる

[ポイント]

事前に様々な体験や経験をすることで、いざという時に役立つ

[回答]

①「防災迷路」という発想はとてもユニークですね。実際に避難所で使用するパーテーション（間仕切り）等で迷路を作って、迷路の中に防災クイズを配置すれば、みんなで楽しみながら避難所の仕組みや災害時の行動を学ぶ場になります。避難所のルールは難しく感じるのをクイズにしてもよいかもしれませんね。みなさんの周りで行われる地区の防災訓練のメニューの一つとして考えてもらうよう、自主防災防犯組織の皆さんにお伝えしたいと思います。 【回答：危機管理課】

②みなさんの意見にあるように、災害が発生すれば、自分たちが普段から知っている場所は、全く違う景色になってしまいます。どんな場所にどんな危険があるかを知ってもらうために、ハザードマップの情報や周りの道に水があふれている様子などが3Dで立体的に見えるようなシステムを作ることを検討しています。 【回答：危機管理課】

③心臓マッサージは1分間に100～120回のテンポで行うことが推奨されます。1分間に刻むリズムが100～120の曲などに合わせる練習が有効です。応急手当講習会では、「アンパンマンのテーマ」や「ドラえものの歌」などの曲を頭の中で歌いながらや、実際に曲をかけたりしてリズムに合わせた心臓マッサージの体験を行っています。また、メトロノームのリズムに合わせた練習も有効であり、各指導員が工夫をこらし講習会を行っていますので、このような親しみやすい方法を知ってもらえるようにしていきます。 【回答：消防局救急課】

④現在、奈良市は非常食をローリングストック法（食材を買い置きして、期限が近くなったら消費して新しいものと入れ替える保管方法）で備蓄しています。奈良市の場合、消費期限がもうすぐ切れる非常食を、地域の防災訓練を実施する自主防災防犯組織などにお配りし、訓練の一環で地域の方に食べてもらっています。みなさんぜひ、友達をさそって、自主防災防犯組織などの防災訓練に参加してみてください。 【回答：危機管理課】

Dグループ <チーム名:JK>への回答

[テーマ]

災害時の情報不足解消について

[提出してくれた意見]

子どもも詳しい知識をつける手段として、ゲーム感覚で楽しみながら、避難所などの情報を知ることができ、さらにポイントと景品を交換できるシステムを採用したアプリを開発する。

[ポイント]

- ・冷静になれない非常時に逃げ遅れることの無いよう、予め正しい知識を身につける
- ・被災時にどのような情報をキャッチするべきか正しい判断をする

[回答]

あまり災害に関する正しい知識を知らない人や子どもに、アプリを使って防災がわかるようにゲームで伝えるというアイデアはとてもいいですね！奈良市では「まちかどトーク」という職員が街に出向いて講座を行うイベントがあり、その中で防災に関するテーマもたくさんあります！例えば、その講座の中でクイズ形式で災害に関する情報を学ぶというのでもいいかもしれませんね。

さらに、近鉄の各駅・JR奈良駅に「デジタルサイネージ」という大きいモニターを置いています。

そこでは、画像でわかりやすく情報を案内しています。防災については、今年の夏に、雷雲が近づいてきたらどういう行動をするべきかをわかりやすくイラストで案内していました。普段はイベント・観光情報が主に流れていますが、みなさんの今回の提案を受けて、誰もがわかりやすいイラストで案内することで、災害時に焦らず行動できるような情報も配信していきたいと思います。もし、みなさんがこれを事前に知っていれば、災害が起きた時に焦らず行動できるなというような内容があれば、ぜひ教えてください！ そのほかにも、奈良市では、多くの市民に防災情報を正しく確実に伝える方法として、防災情報メール、危機管理課X、奈良市HP、防災スピーカーなどを使っていますが、今後、アプリを使った情報発信が新しく始まる際には、防災のお知らせも行うようぜひ考えてみたいと思います。

【回答：秘書広報課、危機管理課】

令和7年度奈良市子ども会議報告書

令和8年1月

【発行】

奈良市子ども未来部子ども政策課

〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号

電話:0742-34-4792

E-mail:kodomoseisaku@city.nara.lg.jp